



# 日乗連ニュース

## ALPA Japan NEWS

www.alpajapan.org

Date 2009.1.22 No. 32-34

発行:日本乗員組合連絡会議・ALPA Japan  
 幹事会  
 〒144-0043  
 東京都大田区羽田5-11-4  
 フェニックスビル  
 TEL.03-5705-2770  
 FAX.03-5705-3274  
 E-mail:office30@alpajapan.org

## Bird Strike : 航空機はスピードに注意！？

先日、ニューヨークのラガーディア空港を離陸した A320 が離陸直後、ハドソン川に緊急着水したニュースが報じられました。現時点では離陸直後、両エンジンに Bird Strike を受けて推力を失い不時着したのではないかと報じています。過去、民間航空における Bird Strike は大きな事故に繋がる事例の可能性が高いとして世界各国で議論され、各国様々な対策を行っています。日本国内では、中部国際空港や北九州空港といった洋上空港に代表されるように、鳥類が生息しやすい湿地帯が隣接する空港が多く、日々の運航に大変大きな影響を与えているのはご存知の通りです。原因の1つとして、空港自体が利用者にとってより便利で都市に隣接すればするほど空港周辺に野畑や生活ゴミが存在し、餌を求める鳥類を寄せ付けてしまうことが挙げられます。また、湿地帯という存在は外敵から身を守る為に周りを広く見渡せることができ、更に身を隠すのに丁度良い背丈の草や水場があるため、鳥類にとって楽園となります。とはいえ、空港周辺から鳥類を完全にシャットアウトするのは不可能であり、今後も Bird Strike を防止する取り組みを続けていかなければなりません。

### <ユニークな鳥害対策>

- ・ バンコク・スワンブーム空港 : 対策の1つとして手作りの火薬玉をパチンコで打ち、音で追い払う。
- ・ ポルトガル・リズボン空港 : 空港が数匹の鷲や鷹を飼い、鳥の種類に応じて鷲や鷹を操り追い払う。

### <日本における Bird Strike >

- ・ 日本国内において 2006 年では 1,233 件が報告されている。東京国際空港で 118 件、神戸空港で 94 件などがある。これにより、エンジンの損傷や空港への引き返しなどによって、国内だけで損失は毎年数億円程度といわれる。各空港、各航空会社で過去に様々な対策が講じられている。

今般、IBSC( International Bird Strike Committee : 世界鳥害委員会 )が意見具申している Bird Strike 防止の為の Standard、また Bird Strike Committee USA/CANADA が IFALPA の AGE(Aerodrome Ground Environment、飛行場環境委員会)で紹介した、運航乗務員が出来る Bird Strike 軽減策例を紹介します。

### < ISBC の Standard >

大きな流れとしては : Manage the Habitat ( 習性を把握して、コントロールする )  
 : Implement the Deterrence ( 阻止を実行 ) の2点が挙げられる。

- Standard 1 : 鳥害対策の責任者を決め、実効的な対策を行う。習性の把握なども担当する。
- Standard 2 : 必要に応じて生態系に詳しい専門家の知識や意見も取り入れる。
- Standard 3 : 離着陸の 15 分前には担当者を配置し、実効的な阻止を行う。夜間は定期的に巡回する。
- Standard 4 : 担当者に必要な訓練、装備を与え、立ち入り区域が制限されないように十分な権限を与える。

( 次頁へ続く )



- Standard 5 : 担当者は 30 分毎、もしくは巡回の度に以下の記録を行う。  
 A - 巡回した区域 B - 確認した鳥の種類、場所、大凡の数 C - 行った鳥害対策とその効果
- Standard 6 : 以下の 3 つのカテゴリーに分類される。  
 Confirmed Strikes 鳥や野生動物との衝突で、機体に衝突跡やダメージが残っている。  
 Unconfirmed Strikes 報告はされたが、物理的なダメージが残っていない。  
 Serious Incidents 鳥や野生動物が生息する場所周辺での、重大な出来事。
- Standard 7 : 空港側は Bird Strike に対する連絡体系を確保する。また、可能な限り関わった鳥の種類を調べ、定期的に ICAO など関連組織に報告する。
- Standard 8 : 可能であれば毎年、海外も含め他の空港での事例を参照して行った対策などを参考にする。
- Standard 9 : ICAO などの関連する発行物を参照し、継続したリスクマネジメントを行う。国や地方自治体も取り組みに参加するとより良い成果につながる。

### < 乗務員が出来る Bird Strike 軽減策例 > \* 参考資料 \*

- ・ 滑走路周辺に多くの鳥や野生動物が確認できる場合には、離着陸を行わない。
- ・ 可能な限り早く 3,000ft 以上に上昇する。
- ・ 低高度で Bird Strike の可能性がある場合には、衝突のダメージを最小限にする為に減速する。
- ・ 鳥類は急降下することは容易であるが、急上昇は難しいと考えられている。衝突しそうな場合には乗務員が Pull Up (上昇) 操作を行うとよい。
- ・ 衝突する対象が大きければそれだけダメージが大きい事を認識する。
- ・ 地域的な特性や、注意を促す為にも経験した Bird Strike を報告する。
- ・ 色々なソースから Bird Strike に関する知識や情報を更新し、常に危険性を認識する。



コクピットのガラスを損傷したケース



エンジンに入ると多大なダメージに

Bird Strike をはじめ、空港周辺には直接的に航空機の安全に関わってくる重要な環境が数多くあります。日乗連 AGE 委員会は今後も国内の空港を注視し、全ての使用者にとって安全で効率的な空港作りに取り組んでいます。同時に、IFALPA の AGE Committee に参加して様々な情報を収集して今後の活動に活かしていきます。引き続き日々の運航の中で、飛行場環境について何か気づいた事や質問などがありましたら、日乗連 AGE 委員会までドシドシご連絡お願い致します！！